# 旧国立駅舎
# 活用方針報告書

国立市　都市整備部　国立駅周辺整備課

# はじめに

大正 15（1926）年の開業以来、まちのシンボルのひとつとして多くの皆さまに親しまれ続けてきた赤い三角屋根の「旧国立駅舎」は、中央線連続立体交差事業のため、平成 18（2006）年、80 年という長きにわたる駅舎としての役目を終えました。

しかし、解体を惜しむ多くの方々の声を受け、市は、旧国立駅舎をほぼ元あった場所に再築できるよう、解体された部材を大切に保管してきました。

平成 29（2017）年 2 月には、土地所有者である東日本旅客鉄道株式会社（JR 東日本）との協議がととのい、旧国立駅舎を再築するための用地を取得し、平成 32（2020）年の完成をめざして事業を進めています。

平成 29 年（2017）年 10 月 14 日および 17 日に開催した旧国立駅舎の活用に関する懇談会を始めとして、国立駅周辺まちづくり会議、国立駅周辺整備駅前報告会などさまざまな場で、市民、関係機関、専門家の方々から国立駅周辺整備に関するご意見をいただき、検討を重ねています。

本書は、旧国立駅舎の再築に関する諸条件と検討経緯を整理するとともに、市民の方々などからいただいた意見を踏まえた旧国立駅舎の活用方針をまとめたものです。

旧国立駅舎の再築は、市民の皆さまの声から、市の事業として実施することが決まりました。また、皆さまからいただいたご寄附等からなる国立駅周辺整備基金および国の補助金を使って旧国立駅舎再築事業を進めています。まちづくりに関わっていただいた方やご寄附をいただいた方のほか、旧国立駅舎に親しみをお持ちの多くの方々の思いに応えられるような魅力的な施設とできるよう、今後も検討してまいります。

（くにたち郷土文化館提供）

平成 30（2018）年３月
国立市　都市整備部　国立駅周辺整備課

# 本書の位置付け・構成

## 本書の位置付け

**再築される旧国立駅舎に関する活用方針の現時点における検討状況の明文化**

※本書は旧国立駅舎再築事業の活用検討資料です。旧国立駅舎は創建当時（大正 15 年）の姿で文化財として再築します。再築後は、国立市の情報発信施設として整備します。旧国立駅舎再築事業に関する基本的な情報については、本書の資料編を参照ください。

## 本書における定義

「活用方針」とは ➡
- 活用コンセプトの設定
- 具体的な活用方法のイメージ

※　活用のイメージは多目的室・観光案内室・展示室の部屋ごとに検討します。

## 本書の構成

**１.再築にともなう前提条件【検討の前提】**

旧国立駅舎を再築するために必要な条件を整理しました。

**２．「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」等でいただいたご意見【検討の経緯】**

平成 29(2017)年 10 月に、市民等の皆さまとワークショップ形式の意見交換懇談会を実施しました。市担当者から旧国立駅舎の活用コンセプト案を紹介した後、活用コンセプト案について感じた意見や具体的な活用のアイデアを出していただきましたので、主なご意見・アイデアをまとめました。（詳細は資料編に掲載しています。）

**３.旧国立駅舎の活用方針【検討した内容】**

前章でまとめた市民等の皆さまのご意見を参考に、市が考える現時点での活用方針をまとめました。（この活用方針をもとに今後、検討を進めてまいります。）

# 目 次


## 1.再築にともなう前提条件【検討の前提】

（1）文化財としての再築
（2）国立駅周辺まちづくり基本計画
（3）都市再生整備計画

## 2.「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」等でいただいたご意見【検討の経緯】

（1）旧国立駅舎の活用に関する懇談会でいただいたご意見
（2）国立駅周辺整備駅前報告会でいただいたご意見
（3）関係団体等からいただいたご意見

## 3.旧国立駅舎の活用方針【検討した内容】

（1）修正した活用コンセプト
（2）各部屋の活用イメージ
（3）今後の活用に関する検討に向けて

## 資料1.旧国立駅舎の概要

（1）沿革（建設から解体まで）
（2）デザイン・構造・間取り
（3）旧国立駅舎と国立学園都市計画

## 資料2. これまでの検討経緯および今後のスケジュール

（1）これまでの検討経緯
（2）再築までのスケジュール

## 資料3.国立駅周辺整備事業の概要

（1）旧国立駅舎再築用地
（2）国立駅周辺 3 公共施設の機能

## 資料4.関連計画

## 資料5.「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」報告書

## 資料6.関係団体等からいただいたご意見の概要

# １.再築にともなう前提条件【検討の前提】

## （1）文化財としての再築

旧国立駅舎は、現存当時は都内で原宿駅等に次ぎ古い希少な大正期駅舎の木造建築物であったこと等から、平成 18（2006）年に国立市指定有形文化財（建造物）に指定されました。

文化財として創建当時の大正 15（1926）年の姿で再築することをめざしています。文化財として再築するため、間取りが変更できない等、建物に制約条件があります。

図：創建当時の旧国立駅舎（所蔵：国立音楽大学）

## （2）国立駅周辺まちづくり基本計画

旧国立駅舎の再築は、国立駅周辺まちづくり基本計画における「まちづくりの理念」にもとづき、コンセプトを「文化」・「観光」・「景観」と設定しています。

また、同基本計画における「まちづくりの目標」にもとづき、活用方針を「市内外の人々が集う交流拠点」・「シンボル性」・「市内回遊性の向上」・「文化の発信」と設定しています。

## （3）都市再生整備計画

国の社会資本整備総合交付金を受け、各室の活用について次のように都市再生整備計画[1]を提出しています。交付金対象事案に対する諸制限を考慮する必要があります。

〇旧広間　→　多目的室として活用
〇旧出札室　→　観光案内所として活用
〇旧手小荷物扱所　→　展示室として活用

特に、多目的室および観光案内所については「観光交流センター」として補助金が交付されるため、観光交流センターの定義にもとづき、施設利用者を「地域住民および観光客」、施設利用目的を「観光案内や地域住民との観光客と交流」とすることが前提条件です。また、交付金対象事案であるため、収益が維持・管理費を上回ってはならない、物品等の販売を主目的とする施設としてはならないという制限があります。

---

[1] 都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）は、地域の特性を活かした個性あふれるまちづくりを支援するための制度。（まちづくり交付金は平成 22 年度より社会資本整備総合交付金に統合されました。）

―　―　―　―（出典：平成 29 年度版都市再生整備計画事業ハンドブック）―　―　―　―

**観光交流センター**

観光交流センターは、地区を訪れる観光客への観光案内や観光客と地域住民との交流のための施設です。

（対象となる施設例）

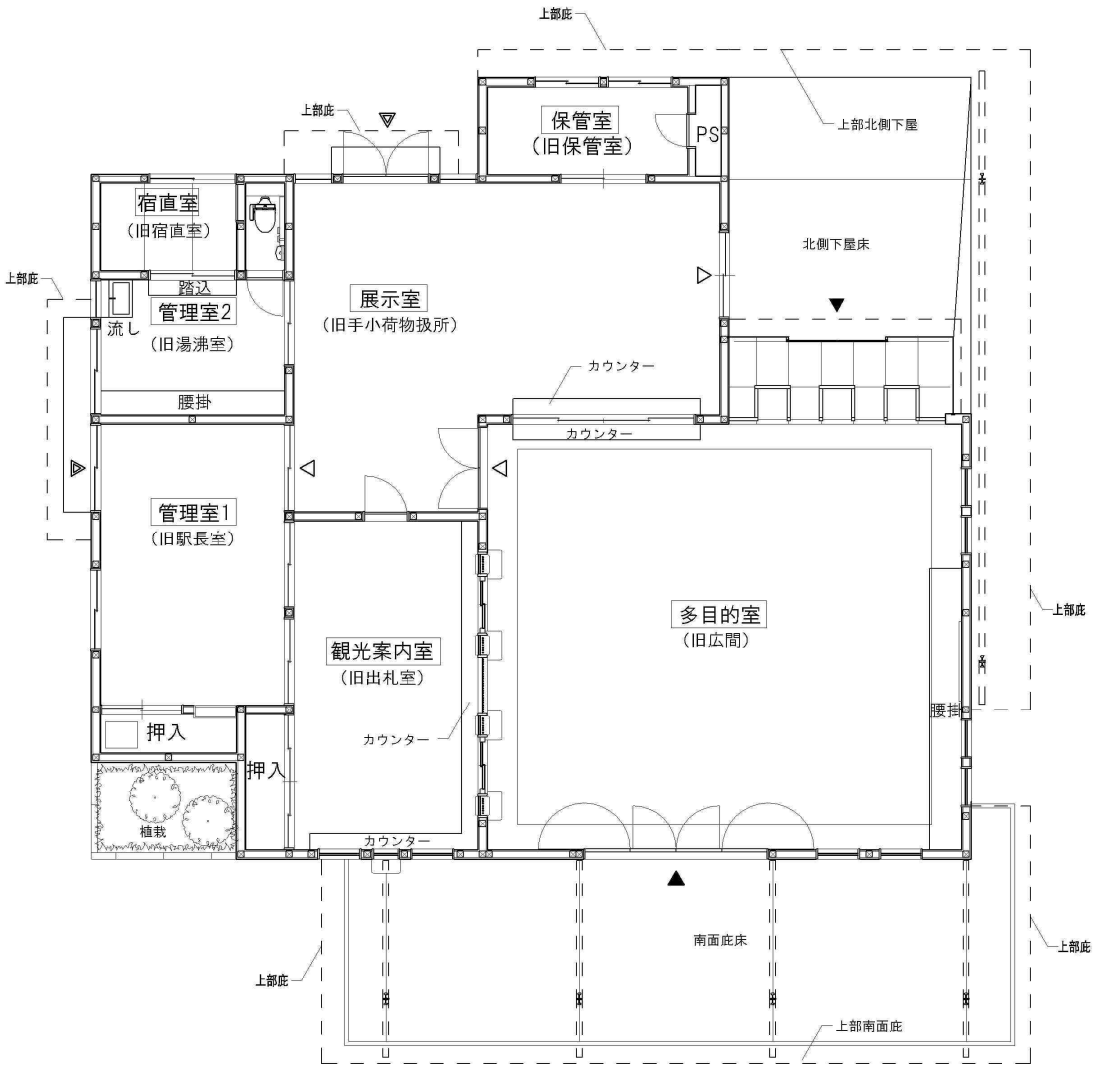
・観光客が随時利用でき、地域住民と観光客の交流の場となる施設
・地域の観光情報の提供や地場物産等の紹介を行う「観光案内所」
・上記に付帯して整備される、観光客の休憩スペース、地域の文化・伝統を紹介・体験できるスペース、地元物産を紹介・即売するスペース（原則として、当該施設による収益が維持・管理費程度であることとし、当該施設の収益により施設整備費が回収できる場合は支援の対象外）

なお、次のような施設は観光交流センターに該当しません。

・交流が主たる目的でなく、公共空間としての趣旨になじまない施設（名所旧跡のゲート施設、博物館、温泉施設）
・地元物産品等の販売を主目的とする施設

―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―　―

## 【参考】




**図：旧国立駅舎の平面図（平成 28 年度基本設計）**

| | |
|---|---|
| **いつ（When）** | **平成 32（2020）年に** |
| **どこで（Where）** | **ほぼ元の位置（JR 国立駅前）に** |
| **誰が（Who）** | **国立市が** |
| **何を（What）** | **旧国立駅舎（多目的室・観光案内所・展示室・管理室）を** |
| **なぜ（Why）** | **「市内外の人々が集う交流拠点」・「シンボル性」・「市内回遊性の向上」・「文化の発信」のために** |
| **どのように（How）** | **文化財として創建当時の大正 15（1926）年の姿で再築する** |
| **誰のために（（for）Whom）** | **地域住民や観光客のために** |

**表：前提条件のまとめ**

## ２．「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」等でいただいたご意見【検討の経緯】

### （１）旧国立駅舎の活用に関する懇談会でいただいたご意見

#### a.懇談会の実施概要

平成 29（2017）年 10 月 14 日（土）および 10 月 17 日（火）に旧国立駅舎の活用に関する意見・アイデアをいただくため、ワークショップ形式の意見交換懇談会を実施しました。2 日間で延べ 70 人の方々にご参加いただきました。

国立駅周辺まちづくり基本計画におけるまちづくりの目標にもとづき、下記の活用コンセプト（案）をもとに、アイデア・意見を出し合っていただきました。

| | |
|---|---|
| ①シンボル性 | ・市民一人ひとりが、自分の住むまちへの愛着や誇りを持てるよう、国立らしい美しく個性的なまちづくりのシンボルとします<br>・次世代に継承すべき文化財として、まちのシンボルである旧国立駅舎を保存します<br>・単にシンボル、文化財としてではなく、「まちづくりの駅」として活用を図ります |
| ②市内外の人々が集う交流拠点 | ・市民や来訪者が気軽に集うことのできる、美しい憩いの空間とします（日常時）<br>・市民や来訪者が集い交流する、まちの賑わいを創出する空間とします（イベント時） |
| ③市内回遊性の向上 | ・市民や来訪者がまちのことをよく知り、まちを巡るために、市内全域の歴史や魅力を集約し発信する「国立と出会う玄関口」にします |
| ④文化の発信 | ・旧国立駅舎の文化財としての価値を後世に残し、伝えます<br>・文教都市にふさわしい、歴史・文化・芸術を発信します |

#### b．懇談会でいただいた主なご意見

詳細は資料５.旧国立駅舎の活用に関する懇談会」報告書を参照ください。

【活用コンセプト案に対するご意見】

- ４つのコンセプトに関して大きな異論はなし。（４つのうち、「シンボル性」が最も重要との意見あり。）
- コンセプトは明快でわくわく感のある言葉に。（キャッチフレーズをつける等。）

【多目的室に関するご意見】

- 駅利用者が通り抜けしやすくする工夫が必要。
- 気軽にたまれる場所にしてほしい。（飲食物の持ち込みや雑誌を読む等。）
- 音楽会を始めとして、さまざまなイベントを開催したい。
- 半円窓から大学通りが見渡せるスポットを作ってほしい。

【観光案内室に関するご意見】

・まちを知るさまざまな仕掛けが必要。（コンシェルジュ、まち歩きイベントの起点、デジタルサイネージによる情報発信等。）
・市の資源・魅力（谷保の自然や市内のグルメ、個人のモノづくり等）を紹介したい。
・地元の名産品等を PR したい。できれば販売してほしい。
・国立に「観光」のイメージが結びつかないため、「観光案内所」はピンとこない。よく考える必要があると思う。

【展示室に関するご意見】

・陳腐化する展示は行わないなど、繰り返し足を運んでもらえる工夫が必要。
・ギャラリーで市民や小中学生の作品展示ができると良い。

【その他のご意見】

・鉄道駅であったことを想起させる空間にしてほしい。（伝言板の設置等）
・写真映えのする空間作りが必要。（ライティングの工夫、イルミネーション、レトロな空間演出、撮影ポイントの設定等。）
・図書コーナーを作ってほしい。（学校おすすめの本・国立市に関する本等。）
・市民や学生が企画や運営に関わることが出来ると良い。
・いつでも出入り自由にしてほしい。

## （2）国立駅周辺整備駅前報告会でいただいたご意見

### a.報告会の実施概要

平成 29（2017）年 7 月 8 日（土）に国立駅周辺整備事業の説明を行うため、国立駅南口（多摩信用金庫国立支店前）において報告会を実施しました。

報告会来場者の方々からいただいたご意見をふせんに書き込み、旧国立駅舎の平面図に貼り付けまとめました。

### b．報告会でいただいた主なご意見

【多目的室に関するご意見】

・多目的室には常時使用できるイスとテーブルがあると良い。
・予約制で使用できる多目的スペースとしてほしい。
・多目的室ではコンサートを開催してほしい。
・多目的室では日替わり商店や地場野菜の販売があると良い。

【観光案内室に関するご意見】

・観光案内室ではグッズや土産品の販売があると良い。

【展示室に関するご意見】

・展示室では昔の国立を知ることができる内容があると良い。

・旧国立駅舎から大学通りを見渡せるようにしてほしい。

## （３）関係団体等からいただいたご意見

### a.実施概要

平成 29（2017）年度に、商業団体やまちづくりに関係する団体、専門家等、27の個人、団体と意見交換を実施しました。

### b.いただいた主なご意見

詳細は資料６.関係団体等からいただいたご意見の概要をご参照ください。

【活用コンセプト案に対するご意見】

・まち全体をつなぐハブとして機能させてほしい。

・旧国立駅舎の文化財としての価値を伝えることが大事である。

【多目的室に関するご意見】

・気軽に入館できる工夫が必要。

・まち歩きの受付箇所（起点）として活用したい。

・ポスターを多く掲示することにより美観を損ねないようにしてほしい。

・ピアノを設置してはどうか。

【観光案内室に関するご意見】

・案内地図を設置してほしい。

・まち歩きの拠点としたい（観光ルートのパンフレット配置、ガイドウォーク受付、スタンプラリー企画等。）

・観光案内室をアンテナショップとして、製品（作品）を知ってもらいたい。

・観光案内室の南側窓や出札窓口を利用した観光案内をしてはどうか。

・観光案内室に入る動線が悪い。

【展示室に関するご意見】

・国立市の都市計画・まちづくりの歴史を展示してほしい。
・ハケ[2]等、地形がわかる国立市のジオラマを設置してはどうか。
・さまざまな企画展を行ってほしい。
・「歴史」より「今」の国立を知ってもらいたい。

【その他のご意見】

・学生、若者向けの活用方法を検討すべき。
・貸イベントスペースや貸ギャラリーとして、民間事業者や市民団体等に貸出してはどうか。
・収益事業によりランニングコストを補てんすべき。
・鉄道愛好家もよろこぶ施設にすると良い。
・市民に愛着を持ってもらうよう工夫を（市民が掃除などの維持管理に関わる等）
・展示室と観光案内室の目的を厳密に分離せず、ゆるやかに混合しても良いのではないか（企画展とそのミュージアムショップにする等）
・屋内だけでなく旧国立駅舎の周囲もベンチや緑環境を整備してほしい。
・Free Wi-Fi および AED を設置すべき。

[2] 崖線（がいせん）、崖地の連なり。

## ３.旧国立駅舎の活用方針【検討した内容】

### （1）修正した活用コンセプト

旧国立駅舎の活用に関する懇談会等で頂いたご意見をもとに、活用コンセプトを次のように修正し、キャッチフレーズを設定しました。これらをもとに今後の活用方針について検討を深化させます。

**a.再築の目的**

**みんなに親しまれ、まちの魅力を高めるくにたちのシンボル**

**の復活**

**b.キャッチフレーズ**

**三角屋根で“まちあわせ”**

元々の駅舎としての機能の一つに「待ち合わせ」があります。これに「まち全体をつなぐハブ機能」や「まちの情報発信機能」といった、くにたちのまちと出会う「街会わせ」という意味を込めました。

歴史ある古い建物をまったく新しい活用方法に塗り替えるのではなく、新旧が共存する活用方針をめざします。

※当フレーズは旧国立駅舎の活用に関する懇談会にていただいたアイデアを組み合わせたものです。

**c.活用コンセプト**

市内外の人々が集う交流拠点

**さまざまな出会いが生まれる「まちのラウンジ」**

市内情報発信・回遊性の向上

**まちの魅力が集まり広がる「くにたちと出会う玄関口」**

文化の発信

**文教都市にふさわしい「歴史・文化・芸術の発信拠点」**

※これまで市が提示した活用コンセプト案（2.（1）a.参照）の方向性は、一定程度妥当性があることが懇談会等の場で確認できたと考えています。コンセプト案を上記のように短く楽しいフレーズに修正しました。

## （2）各部屋の活用イメージ

### a.多目的室（広間）の活用イメージ

[部屋の呼称] **広間**

※復原建物であることを象徴的に表すことおよび従来からの待合室としての活用から、創建当時の呼称に合わせます。

[活用方針] **旧国立駅舎の創建当時の雰囲気が味わえる待ち合わせ・憩いの場**

創建当時の姿で詳細に復原する多目的室は、シンボリックな空間としてその雰囲気を壊さないよう配慮しつつ、平常時は待ち合いの場、憩いの場として活用するため、気軽に立ち寄れる落ち着きのある空間を作ります。また、デジタルサイネージの設置により、待ち合わせをしながらくにたちの情報を収集できる仕組み作り等、レトロな空間と新しい機能の共存について検討します。

子ども、学生、子育て世代、高齢者、しょうがいしゃ、外国人、他市からの来訪者など、多様なターゲットのさまざまなイベントに対応できるようにするため、設置する備品等は必要最小限にします。

[意見の反映ポイント]

- 創建当時の空間の雰囲気を損なわないでほしい
- 従来は鉄道の駅であったことを踏まえた活用方法としてほしい
- 待ち合わせをしながら国立市の情報を収集したい
- 定期的に音楽会を始めとしたさまざまなイベントを行いたい

[基本的な活用（日常的な活用）]

①人が集まる待ち合わせの場・憩いの場

②歴史的な雰囲気を感じる特別な空間

③さまざまな情報を提供するデジタルサイネージを設置

[新たな視点による活用（時間や条件を限定した場合に可能）]

④市内の祭りや季節の節目ごとに合わせてイベントに使用

⑤地元商店会や教育機関等による企画・イベント活用

⑥その他旧国立駅舎ならではの企画

[今後の検討課題（具体的イメージ）]

①人が集まる待ち合わせの場・憩いの場

→ふらっと立ち寄り、飲食や読書、おしゃべり等ができる環境をととのえるため、旧国立駅舎の廃材を利用したベンチの設置や、音楽を流すなど居心地の良い環境をめざして検討をします。（JR 国立駅利用者による通り抜けを阻害しないように考慮します。）

②歴史的な雰囲気を感じる特別な空間

→創建当時（大正 15 年）を可能な限り忠実に再現し、歴史性を感じられる空間作りをめざします。また、改札で記念切符を切るパフォーマンス等を行うことや、古き良き昔の駅をイメージするもの（伝言板等）の設置を検討します。

③さまざまな情報を提供するデジタルサイネージを設置

→おすすめスポット情報・日々のイベント情報・時刻表といった利用者目線の情報のほか、桜並木など景観の良さを伝えるＰＲ映像・広告・災害情報・注意喚起情報等を放映することが可能か検討します。

④市内の祭りや季節の節目ごとに合わせてイベントに使用

→さくら開花（入学）・天下市・旧車祭・クリスマス等さまざまな時期に応じて、旧国立駅舎でどのようなことができるか検討します。入学やクリスマスの時期にコンサートを行うことや旧車祭の時期に車体を展示すること等のアイデアをいただいております。また、愛着を生む企画として、市民参加の大掃除の実施を検討します。

⑤地元商店会や教育機関等による企画・イベント活用

→くにたち市民芸術小ホールや公民館との差異化を考慮のうえ、学生によるコンサート等を開催することや、定期市のような場、地元商店会のイベント会場として活用ができるか諸条件を踏まえ検討します。

⑥その他旧国立駅舎ならではの企画

→まち歩きイベントの起点としての活用、大正期にちなんだ企画等、旧国立駅舎ならではの企画について検討します。大正・昭和初期にちなんだ企画の例として、撮影会や蓄音機による音楽会、当時を模した結婚式等のアイデアをいただいております。

## b.観光案内室（旧出札室）の活用イメージ

[活用方針] **くにたちの魅力を発信するインフォメーションセンター**

利用者を来訪者に限定せず、市民を含む多くの方々にさまざまな「くにたちの魅力」を知ってもらい、まち巡りを喚起することを第一の目標として活用します。平成 26（2014）年の「国立市の観光に関する提言書」[3]における基本テーマ『TOKYO SALON 出会いを楽しむ街　くにたち』と呼応した、「くにたちと出会う玄関口」づくりをめざします。

具体的には、対人のインフォメーションセンターとしての活用を主軸とします。そのほか、物産販売等の付帯的機能の追加について、諸条件を踏まえ実現性を検討します。

観光案内室に入るまでの経路があまり良くないとの意見をいただいているなか、文化財として間取りが変更できないため、窓口を利用した運用方法や、観光案内室まで入りたくなるような空間デザインの工夫を検討します。

[意見の反映ポイント]

- 国立市の名所や名産品等を紹介してほしい
- 観光案内室に入りにくいので工夫が必要

[基本的な活用（日常的な活用）]

①インフォメーションカウンターの設置

②国立駅周辺および市内のまちの魅力を紹介する観光情報の集約

③旧出札窓口等を魅力的に活用

[新たな視点による活用（時間や条件を限定した場合に可能）]

④市内の商店や作家等の紹介につながる物販コーナー

⑤まちの資源への誘導につながる企画の実施

[3] 資料４.関連計画参照。

［今後の検討課題（具体的イメージ）］

①インフォメーションカウンターの設置

→インフォメーションカウンターの案内人に関する検討（案内人として必要となる機能の整理、案内人の受付時間、ボランティアスタッフ）を進めます。案内人には接遇の作法（おもてなし）を持ってもらうことが重要、観光・イベント情報に限らず行政情報の案内もできると良い、案内人が大正期風の服装であると良いといったアイデアをいただいています。

②国立駅周辺および市内のまちの魅力を紹介する観光情報の集約

→大きな市内地図による情報発信や、テーマを変えた市内の魅力の特集企画等について検討し、まち歩きを喚起します。名所の紹介だけでなく、街中で頑張っている方々についても広く紹介してほしいというご意見をいただいています。また、国立市観光まちづくり協会等ノウハウを持っている団体との連携を検討します。

※鉄道総合技術研究所等、国立駅が最寄り駅である市外の情報もあると良いというご意見から、「国立駅周辺および市内の～」と表記しています。

③旧出札窓口等を魅力的に活用

→観光案内の窓口として、旧出札窓口（駅員風）や南側窓（キオスク風）をうまく利用できないか検討します。また、旧出札窓口を写真撮影のポイントとして楽しんでいただけるようにします（大正時代風の貸衣装を用意する等の工夫を検討。）

④市内の商店や作家等の紹介につながる物販コーナー

→物販コーナーを設けます。お土産となる旧国立駅舎グッズ（例：再築に使えなかった部材を再利用したグッズ）の企画やアンテナショップのように名産品等を販売することについて検討します。なお、旧国立駅舎での物販により市内回遊性を損なわないよう考慮します。

⑤まちの資源への誘導につながる企画の実施

→市内には、旧国立駅舎だけでなく谷保天満宮や個性的な店舗、豊かな自然等、多くの観光資源があります。各所へ足を運んでいただけるような情報発信や企画を検討します。

## c.展示室（旧手小荷物扱所）の活用イメージ

[活用方針] **くにたちの歴史・文化・芸術を伝える展示室**

展示室では、常設展示として文化財としての価値や、旧国立駅舎、大学通り、円形公園を軸とした国立学園都市の都市計画上の稀少性について発信していくことを基本とします。歴史（昔）の展示にとどまらず、現在・未来のくにたちに関して知っていただけるような内容についても検討します。常設展示物は移動可能なものとし、企画展に柔軟に対応できるものとします。

[意見の反映ポイント]

- 歴史の発信だけではなく、文化・芸術についても発信してほしい
- 国立市の歴史や特徴を知ってもらったうえで、まちを巡ってほしい
- 常設展示のみではリピート率が非常に低くなるため展示を定期的に変更してほしい

[基本的な活用（日常的な活用）]

①旧国立駅舎の文化財としての価値の紹介

②くにたちのまちの形をわかりやすく伝える展示

③まちを巡りたくなるような、くにたちの魅力を伝える展示

[新たな視点による活用（時間や条件を限定した場合に可能）]

④企画展の実施

⑤観光案内室と連動した企画・展示の実施

［今後の検討課題（具体的イメージ）］

**①旧国立駅舎の文化財としての価値の紹介**

→パネル展示などで、国立大学町の誕生とともに建てられた歴史的建物であることや、多くの方々に親しまれ保存活動が行われた経緯、復原方法やその過程の紹介や古レール柱（再利用しなかった部分）等の部材展示等を引き続き検討します。なお、文化財としての旧国立駅舎についてはくにたち郷土文化館でも展示を行うことで、くにたち郷土文化館への来館を促します。

**②くにたちのまちの形をわかりやすく伝える展示**

→駅とまちが一体になった優れた都市計画により国立学園都市が形作られたことに関するパネル展示等を行います。古地図等が展示されているとわかりやすいのではないかとのご意見をいただいています。

**③まちを巡りたくなるような、くにたちの魅力を伝える展示**

→活用コンセプトである「まちの魅力」の集約・発信は展示室でもすべきであるというご意見をいただいています。文化財に関連する資料展示にとどまらない展示内容について検討します。また、観光案内室または広間と連動した情報発信や、地域について学ぶことのできる図書コーナーを検討します。

**④企画展の実施**

→歴史・文化・芸術に親しんでいただくために、くにたち郷土文化館等の出張展示等の企画展について検討します。企画展開催時に対応できる常設展示物のレイアウトを検討します。

**⑤観光案内室と連動した企画・展示の実施**

→くにたちの魅力を伝える展示等では、観光と関連する場合が想定されることから、各室の目的の範囲内で必要に応じて連動して企画・展示を実施できないか検討します（例：くにたちアートビエンナーレ等。）また、美術館とミュージアムショップの関係性のような活用方法の意見をいただいています。

## （３）今後の活用に関する検討に向けて

### ①運営に関する視点から

前項までの活用方針にもとづく、具体的活用を実現できる運営方針を今後検討します。懇談会にて、市民や学生等が企画または運営に参加できると良いというご意見をいただいているため、市民との協働による継続的な民間・市民力を活かした組織による運営を選択肢の一つとします。また、旧国立駅舎にて行うイベントにおいて、民間企業や市民団体等が企画するものをどの程度とすべきか検討します。

運営費（ランニングコスト）を収益事業により部分的に賄うことができないかという意見をいただいております。広告、物販等による収益事業について諸条件を踏まえ、実現性を検討します。

また、より多くの方々に利用いただける適切な開館時間の設定について検討します。

### ②文化財に関する視点から

旧国立駅舎の文化財としての価値について市民の間での認知を高め、後世にわたって残していくための活用を念頭に検討を進めます。イベント等による積極活用が必要であるという意見がある一方、文化財としての佇まいに重きを置くべきという意見もあり、どのレベルまでの活用を許容すべきか、また、文化財として適当なインテリアやサイン計画、照明計画等はどのようなものであるか、検討します。また、初めて旧国立駅舎を見た方が、文化財の建物だとわかるような説明書きを設けます。

### ③観光に関する視点から

旧国立駅舎は、市民のための活用を前提に、市外の人や外国人にも親しんでもらうことのできる場として求められており、「まちの魅力」を発信するといった、地域への愛着につながる視点（住んで良し・訪れて良し）で観光を捉え、検討する必要があります。

また、愛着を生み出すという視点から市民参加のイベント（大掃除等）について検討します。

### ④にぎわいに関する視点から

待ち合わせの場や憩いの場としての利用が多く生まれることが想定される一方、変化のない空間であれば、次第ににぎわいが失われていく可能性があることから、定期的な企画展やイベントの開催等を検討します。

なお、旧国立駅舎は創建当時の姿で文化財として再築する方針であることから、食品衛生法上、カフェ等の喫茶店・飲食店の営業ができない設備水準となります。また、建築審査会において基本的に火気を使用しない前提で認定を受けています。イベント時にキッチンカーを建物脇に駐車させるなど、代替的ににぎわい創出を生み出す仕掛けの検討も必要です。

**⑤災害発生時に関する視点から**

JR 国立駅に隣接し、不特定多数の人が利用することから、災害発生時の対処として災害情報の発信等について検討します。

**⑥景観に関する視点から**

大学通りのイルミネーションとの連続性の観点から、夜間における景観にも配慮してほしいとの意見をいただいており、ライトアップ照明を設置し、ランドマーク性を高めます。

また、大学通りの正面に位置することから、半円窓や高窓から大学通りを見渡すことのできる視点場として整備できないかといった意見をいただきました。建物構造上、来館者が小屋裏に上ることができないから、定点カメラ等の設置による代替を検討します。

また、建物背面の見え方への配慮も検討します。

**⑦国立駅周辺まちづくりに関する視点から**

旧国立駅舎の再築を契機に、南口駅前広場（円形公園）の再整備に向けた検討や交通管理者との協議を進めます。また、旧国立駅舎に隣接する用地を所有するＪＲ東日本と、市のまちづくりに関する施策に照らし、景観に配慮し、市民が集い来訪者を迎え、にぎわいのある駅前とするための協議をします。

# 資 料 編

# 資料１.旧国立駅舎の概要

## （1）沿革（建設から解体まで）

旧国立駅舎は、当時の東京商科大学（現在の一橋大学）との契約にもとづいて、箱根土地（現在のプリンスホテル）が建築し、鉄道省（現在の JR 東日本）に寄付した請願（せいがん）駅でした。駅は大正 14（1925）年に着工され、大正 15（1926）年４月に開業しました。

開業当初、「赤い三角屋根に白い壁」という典型的洋館風の駅は、箱根土地の開発した分譲地（国立大学町）の広告塔として大きな役割を狙ったものと思われ、文化的なまち国立をイメージするデザインとして、分譲広告には駅の写真が大きく掲載されました。

その後、市のシンボルの一つとして長らく親しまれてきましたが、平成 18（2006）年に国立市指定有形文化財（建造物）に指定された後、中央線連続立体交差事業にともない解体されました。解体された部材は国立市へ引き渡され将来的な再築をめざし、保管してきました。

図：昭和 2 年印刷の箱根土地の分譲広告（出典「国立に誕生した大学町―箱根土地(株)中島陟資料集―」）

## （2）デザイン・構造・間取り

### ①デザイン（意匠）

古写真等から外観意匠を復原すると、建築当初は屋根窓（ドーマー窓）が４ヵ所あり、本屋妻面の両端に柱型が取り付いていました。半円アーチ窓は木製の銀杏型の桟（さん）が入れられていました。広間南、東には壁がまわり、中央に玄関口、左右に上げ下げ窓を配し、英国レッチワースの駅舎に似た住宅風デザインでした。左右非対称の三角形の大屋根にロマネスク風のアーチ窓をあしらっており、たいへん個性的です。なお、屋根窓は昭和 45（1970）年、柱型は昭和 27（1952）年までに滅失しています。屋根窓および柱型は復原する予定です。

図：創建当時の旧国立駅舎（出典「国立に誕生した大学町―箱根土地(株)中島陟資料集―」）

### ②構造

旧国立駅舎は木造平屋、本屋[4]はキングポストトラス[5]の洋小屋で、壁軸部は４寸柱の間に３尺間隔で間柱を入れ、木摺（きずり）を打って大壁としています。

なお、ひさし部分は古レールが柱に用いられていました。古レールは当時の鉄道建築の作られ方を知るうえで貴重な資料です。前面ひさし部には柱が４本立っていて、以下のとおりの標記が確認されました。このうち２本を再利用し、再築する予定です。

図：小屋組（キングポストトラス）の様子（平成 18 年解体時撮影）

| | | |
|---|---|---|
| 一番西側の柱 | 南（外）側柱 | 〔ＵＮＩＯＮ〕の標記。ウニオン社はドイツを代表する製鋼所。 |
| | 北（内）側柱 | 〔ＣＡＲＮＥＧＩＥ〕の標記。製造年〔18□□〕。カーネギー社は鉄鋼王アンドリュー・カーネギーによって創立された製鉄会社。これが母体となりＵＳスティールが設立。 |
| 西から二番目の柱 | 南（外）側柱 | 〔ＣＡＲＮＥＧＩＥ 1905 ET〕の標記。ET はカーネギー社エドガートムソン工場の頭文字。 |
| | 北（内）側柱 | 〔UNION D 1887 W.T.K.〕の標記。D はドルトムント製鉄所製造のものに付された印。 |
| 西から三番目の柱 | 南（外）側柱 | 〔□□□□ ILLINOIS STEEL Co SOUTH WKS 1898〕の標記。イリノイスティールシカゴ南工場を示している。 |
| | 北（内）側柱 | 不明 |
| 一番東側の柱 | 南（外）側柱 | 不明 |
| | 北（内）側柱 | 〔BV ＆ Co 1888〕の標記。BV はイギリスのボルコウ・ボーン社。 |

表：国立駅のレール柱（出典「『多摩のあゆみ』第 70 号」）

### ③間取り

開業当初の間取りは、間口５間（約 9.1m）×奥行４間半（約 8.2m）の広間を中心として、西側に出札室、手荷物扱所、駅長室、保管室、宿直室等の業務部門が置かれていました。広間は腰掛けが置かれるなど、出札、改札と同時に待合室の機能を持っており、幅２間（約 3.6m）の扉と大壁に囲まれた空間でした。

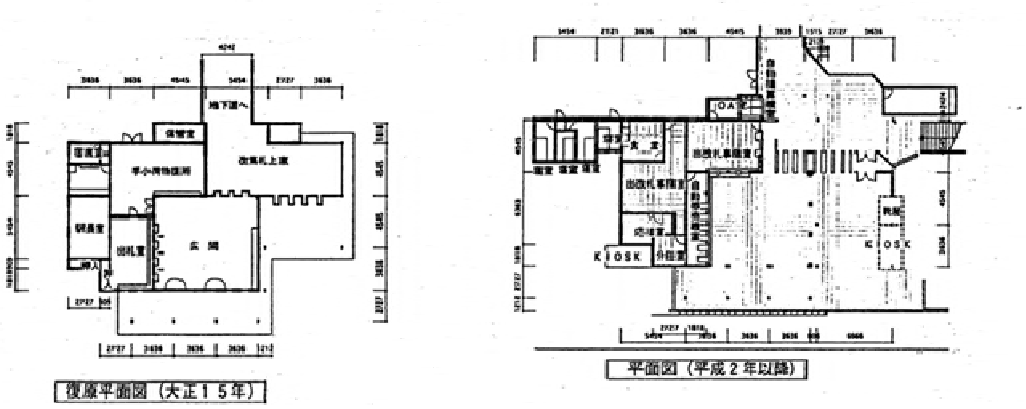
---

[4] 駅の中心的な建物。

[5] 明治期から大正期にかけての典型的な構造技法の一つ。トラス構造とは、三角形による骨組み構造のこと。

昭和 41（1966）年にホームからの連絡階段設置にともない、広間の正面から南東の壁・扉は撤去されました。その後、自動改札機の導入と乗降客増により、広間東側の壁も撤去され、コンコースが拡張されるなどの大幅な改装が行われました。業務部分も大幅に改装され、手荷物扱所、出札室の縮小があり、事務・共用スペースが広がりました。

しかし、旧国立駅は大きな機能の変化があったにもかかわらず、基本的な柱配置は変えず、外観に大きな影響を与える改装は行われていなかったことになります。旧国立駅舎は大正 15（1926）年の創建当時の間取りに復原する予定です。




図：間取りの変遷（出典「国立駅周辺プラン報告書」）

## （3）旧国立駅舎と国立学園都市計画

国立学園都市のまちの最初の構想は、大正 14（1925）年 9 月 9 日に箱根土地と東京商科大学の間に結ばれた覚書に書かれています。この中で、駅舎は外観を考慮し入念に建築することとされているほか、駅前広場を設けることや大学通りの幅（24 間＝約 44m）についても言及されているなど、開発当初から駅とまちが一体となった優れた都市計画の貴重な事例です。

国内の駅前広場の多くが、戦後に整備されたものであり、国立駅の南口駅前広場は先駆事例と言えます。国立駅の駅前広場は開発当初、中央の円形公園に水禽舎[6]（すいきんしゃ）が置かれ、ペリカンが飼われるなど、人が集まる場所として計画されていました。

[6] 水鳥の檻。

# 資料２.これまでの検討経緯および今後のスケジュール

## （1）これまでの検討経緯

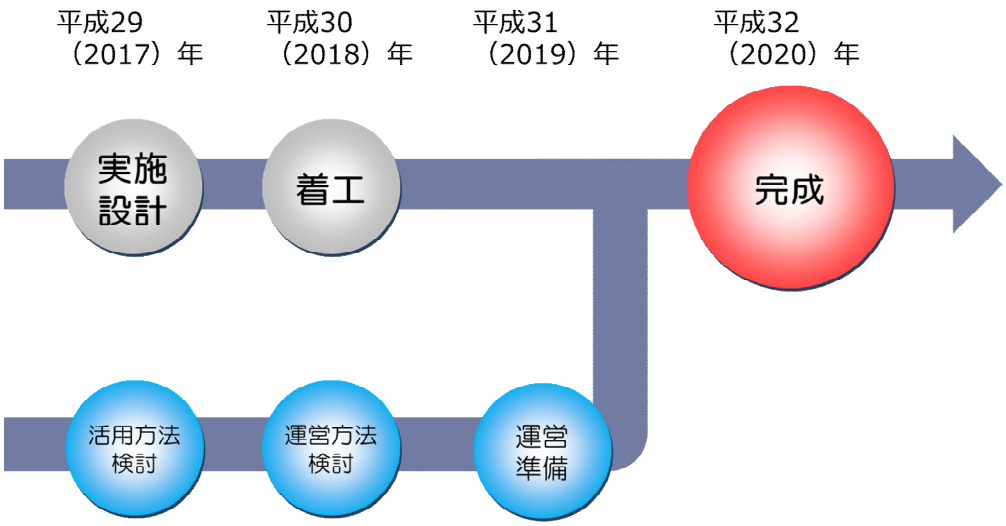
平成 22（2010）年に「国立駅周辺まちづくり会議」が設置され、市民、関係機関、専門家によって国立駅周辺整備について平成 21（2009）年に策定された「国立駅周辺まちづくり基本計画」に基づいた包括的な検討を行い、平成 25（2013）年の会議にて旧国立駅舎を再築することを確認しました。

平成 27（2015）年、それまでの国立駅周辺整備駅前報告会の来場者からいただいたご意見を踏まえたうえで、国立市文化財保護審議会にて再築年代を創建当時の大正 15（1926）年とすることが決定されました。

平成 29（2017）年には「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」を開催し、幅広い年齢層の方々から活用のご意見、アイデアをいただきました。また、関係機関や学識経験者からも個別にヒアリングを実施し、ご意見、アイデアをいただきました。

## （2）再築までのスケジュール

以下のイメージ図のとおり、平成 30（2018）年の着工から平成 32（2020）年の完成までの間に皆さまからいただいたご意見を踏まえたうえで活用方法および運営方法等を検討してまいります。

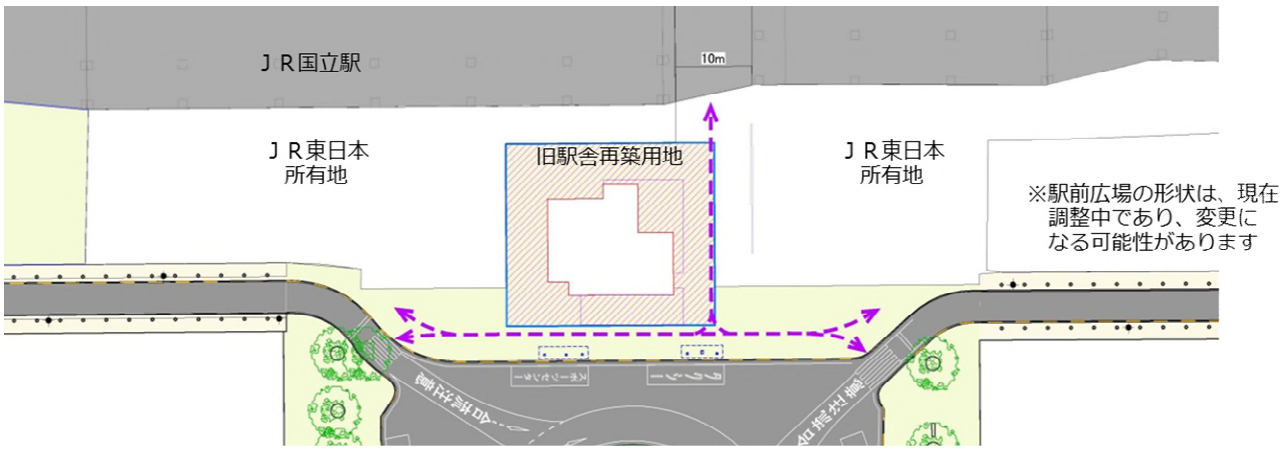



図：旧国立駅舎再築スケジュールイメージ図

# 資料３.国立駅周辺整備事業の概要

## （1）旧国立駅舎再築用地

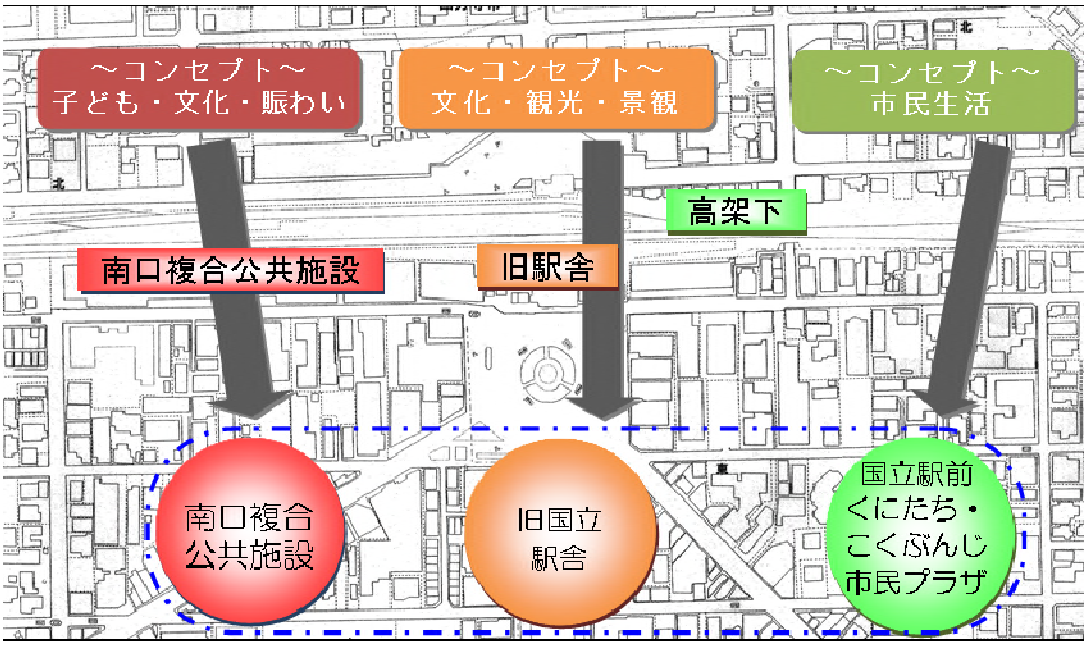
旧国立駅舎の再築用地は下図青枠内であり、ほぼ元の位置に再築し、大学通りから見た景観、街並みを回復させます。（元の位置から西に約 3.2m、南に約 4.9m 移動。）




図：再築位置（平面図）

## （2）国立駅周辺 3 公共施設の機能

国立駅周辺に新たに整備する「旧国立駅舎」、「国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ」、「南口複合公共施設」の 3 つの施設におけるコンセプトおよび機能は、国立駅周辺まちづくり基本計画の「まちづくり理念」（次項参照）を国立駅周辺まちづくり会議等における議論を踏まえたうえでそれぞれに配置しました。




図：国立駅周辺 3 公共施設のコンセプト

## 【まちづくりの理念】

「人」はまちづくりのかなめであり、人と人とがつながっていくことでまちも元気になっていきます。みんなでつくる国立駅周辺の空間が、暮らし（市民生活）や文化をはぐくみ、人びとの力（賑わい・観光・子ども）を生みだし、美しい景観を創造していきます。

また、国立駅周辺に望まれる公共施設（機能）について調査し、各機能を下表のように国立駅周辺 3 公共施設へ分配する方針です。旧国立駅舎の機能は、敷地面積や他 2 施設との兼ね合い等から、ギャラリー、イベント会場、待ち合わせ場所、ベンチ、休憩スペース、観光案内所の機能を持たせることとしました。

| 国立駅周辺に望まれる公共施設 | 導入する施設・機能 | 整備場所（※） | 理由・説明 |
|---|---|---|---|
| 駐輪場 | 駐輪場 | ●複合 | 南口複合公共施設の附置義務分を整備する。 |
| 駐車場 | 駐車場 | ●複合 | 南口複合公共施設の附置義務分を整備する。 |
| 図書館 | 図書の貸出・返却 | ●高架下 | 高架下市民利用施設に導入する市民サービスコーナーに併設し、図書の貸出・返却機能に特化して実施する。 |
| | 絵本の部屋 | ●複合 | 南口複合公共施設に導入する子育てひろばに、子ども向けの絵本等に特化した絵本の部屋を設置する。 |
| 市役所出張所 | 市民サービスコーナー | ●高架下 | 住民票等が取得できる市民サービスコーナーを高架下市民利用施設に整備し、市民の利便性の向上を図る。 |
| | 女性等相談 | ●高架下 | 女性等を対象とした相談事業の実施と、より一層の啓発活動を行う施設を整備する。 |
| 公園・緑地・緑 | 子育てひろば | ●複合 | 子どもが安全に遊べ、親子の交流ができる子育てひろばを整備する。<br>緑地・緑については、民間事業者による屋上緑化等の整備を誘導していく。 |
| 保育園・幼稚園・託児所 | 一時保育 | ●複合 | 南口複合公共施設に導入する子育てひろばに、一時保育機能を付与し、国立駅周辺を利用する子育て世代を支援する。 |
| トイレ | トイレ | ●複合<br>●高架下 | 市民向けのトイレを整備する。 |
| ギャラリー・美術館<br>ホール・イベント会場 | 多目的ホール | ●複合 | 文化・芸術の充実と発信を行う文教都市にふさわしい施設を整備する。 |
| | 展示ギャラリー | ●旧駅舎<br>●高架下 | 市の文化・歴史等について発信するスペースを整備する。 |
| 待ち合わせ場所<br>ベンチ・休憩スペース | オープンスペース | ●旧駅舎<br>●高架下 | 市民や来訪者が交流でき、気軽に憩えるスペースを整備する。 |
| 会議室 | 会議室 | ●高架下 | 高架下市民利用施設に導入する市民サービスコーナーに付随した会議室を整備する。 |
| 観光案内所 | 観光案内所 | ●旧駅舎 | 市民や来訪者に市の魅力等を発信する。 |

※整備場所　●複合：南口複合公共施設　●旧駅舎：旧国立駅舎　●高架下：国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ

表：国立駅周辺 3 公共施設の導入機能

# 資料４.関連計画

本資料は、第５期基本構想や国立駅周辺まちづくり基本計画等の関連計画にもとづき作成しました。

表：上位・関連計画等における旧国立駅舎の位置づけ等

| 上位・関連計画名、策定年度 | 旧国立駅舎の位置づけ等 |
|---|---|
| 国立市総合基本計画<br>第５期基本構想<br>第１次基本計画<br><br>平成 28 (2016)年度 | 旧国立駅舎の再築を、まちの文化を継承し、にぎわいを呼び込み、市全体を活性化させる事業と位置づけています（「国立ブランド」の向上）。<br>また、歴史・文化遺産の適切な保護の政策として、「文化財として市民が歴史・文化に親しむ場」とすることおよび、都市基盤の政策として「再びまちのシンボルとしていくとともに、新しい情報発信拠点として活用する」、「国立大学町のまちづくりの歴史を今に伝え、市への愛着を醸成するとともに国立駅周辺の景観構造を回復し、「まちづくりの駅」として、まちの回遊性を高める役割を担う拠点として整備」することを定めています。 |
| 国立市都市計画マスタープラン[改訂版]<br><br>平成 22 (2010)年度 | 関係機関等との協議を進め、「国立駅周辺まちくづくり基本計画」に基づき、ほぼ元の場所に復原し、単に国立のシンボル、文化財としてではなく、駅前広場との一体的な整備・活用を図ることを定めています。 |
| 国立駅周辺まちづくり基本計画<br><br>平成 21 (2009)年度 | 新駅舎との離隔をとったほぼ元の場所に木造で復原し、復原後の活用については、単にシンボル、文化財としてではなく「まちづくりの駅」として活用を図る・憩いや展示等のスペースとして利用を図ると定めています。 |
| 国立駅周辺プラン報告書<br><br>平成 11 (1999)年度 | 国立学園都市の都市計画や旧国立駅舎の建物の特徴などについての調査をまとめています。また、保存活用の構想についていくつかの案を検討しています。 |
| 国立市都市景観形成基本計画<br><br>平成 8 (1996)年度 | 国立の景観の特性（国立らしさ）を「計画的につくられた整然としたまちの中に豊かな緑を有し、多摩の中で独自に発展した都市として、個性豊かな景観を有していること」などと整理し、中でも国立駅とその南に伸びる大学通りの景観は国立のシンボルとなっているとしています。 |
| 国立駅周辺地区都市再生整備計画<br><br>平成 26 (2014)年度 | 計画区域の整備方針を①「市全域の歴史や地域の魅力を発信し、愛着と魅力のあるまちを実現する」、②「国立らしい景観を活かした美しいまちなみを実現する」、③「気軽に憩え、交流し、楽しみが享受できる空間をつくり、豊かに暮らし、交流することで活気が生まれるまちを実現する」と定めています。旧国立駅舎再築事業を高次都市施設・観光交流センターおよび地域総合支援事業（展示スペース）として国に申請し、社会資本整備総合交付金の交付を受けます。 |

| 上位・関連計画名、策定年度 | 旧国立駅舎の位置づけ等 |
| --- | --- |
| 国立市の観光に関する提言書<br><br>平成 26 (2014)年度 | 国立市のめざす観光の基本テーマを「TOKYO SALON 出会いを楽しむ街くにたち」、サブテーマを「学び賢くなる場をつくる（来訪者とともに学び賢くなる）」、「住民みんなでおもてなし（来訪者とともに暮らしを楽しむ）」「もっと住みたくなる街をつくる（来訪者とともに多様なライフスタイルをつくる）」と提言しています。必要な観光施策の例として駅前観光案内所を挙げています。 |
| 第３期国立市中小企業等振興会議最終報告<br><br>平成 29 (2017)年度 | 「観光交流施設となることが予定されている旧国立駅舎を情報発信の拠点とし、駅舎関連グッズの開発や市の魅力を PR するジャンル別のマップ等の製作を国立市観光まちづくり協会など関係機関へ働きかける」ことを提案しています。 |

資料５

# 資料５．「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」報告書

**旧国立駅舎の活用に関する懇談会**

**JR 国立駅前に再築される「旧国立駅舎」の素敵な活用をみんなで考えよう！**

**開催報告**

## １．目的

2020 年に再築予定の旧国立駅舎について、市民の皆様や興味関心のある方々から活用の意見・アイデアをいただくため、ワークショップ形式の意見交換懇談会を実施しました。

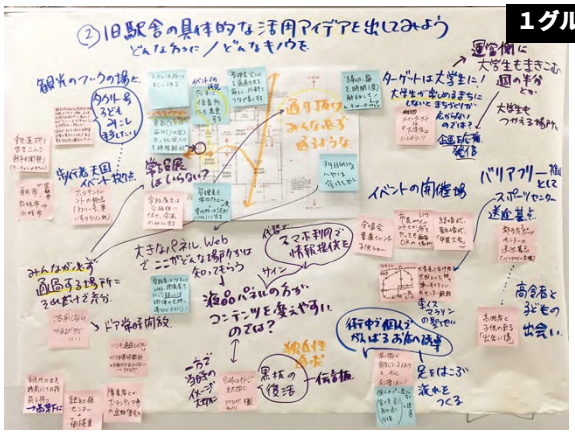
## ２．実施概要

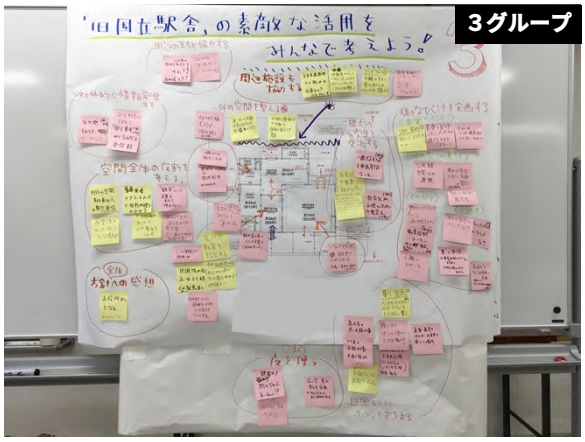
より多くの方々からの参加を得るため、平日・休日の 2 回（①・②とも同内容）開催し、延べ 70 名の皆様にご参加いただきました。実施概要は、下表のとおりです。

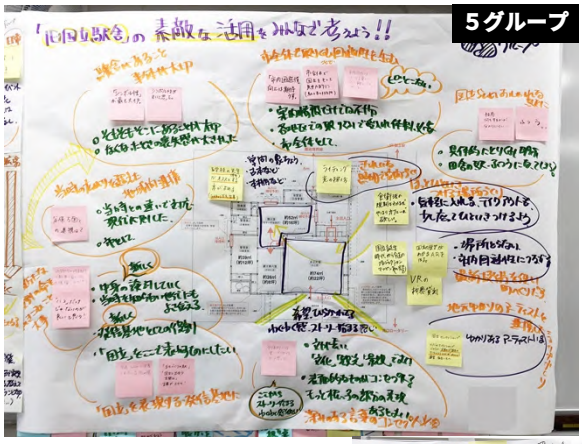
| | |
|---|---|
| 日　時 | ①2017(平成 29)年 10 月 14 日（土）10:00～12:30<br>②2017(平成 29)年 10 月 17 日（火）19:00～21:30 |
| 会　場 | ①くにたち市民総合体育館　2 階第 1・2 会議室<br>②国立市公民館　地下１階ホール |
| 参加人数 | 延べ７０名（他、傍聴者３名）<br>①３０名<br>②４０名（他、傍聴者３名） |
| 広報等 | ＜参加対象＞<br>・市内在住・在勤・在学、または旧国立駅舎に関心のある市外の方で、会の開催趣旨に賛同いただける方<br>＜広報手段＞<br>・チラシの公共施設設置<br>・ポスターの市内駅周辺掲示<br>・ホームページ・SNS<br>・市報（9 月 5 日号）<br>・プレスリリース（新聞等に掲載）<br>・商業関係者、まちづくり団体、大学等への参加依頼 |
| プログラム | 1. 開会あいさつ<br>2. オリエンテーション<br>・本日の趣旨説明<br>・旧駅舎の概要の紹介<br>・旧駅舎の活用案の紹介<br>・グループワークの進め方<br>3. グループワーク<br>テーマ①：旧駅舎活用コンセプトを聞いて感じたことを共有しよう<br>テーマ②：旧駅舎の具体的な活用アイデアを出してみよう<br>4. グループ発表<br>5. 閉会あいさつ |
| 主　催 | 国立市 国立駅周辺整備課 |

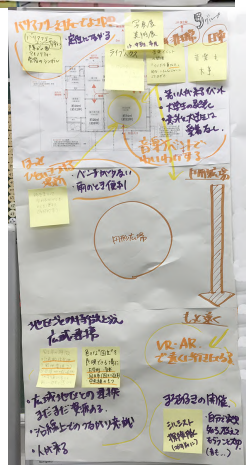
## ３．当日の意見交換の成果

### （1）懇談会①（2017（平成 29）年 10 月 14 日（土）10：00～12：30）



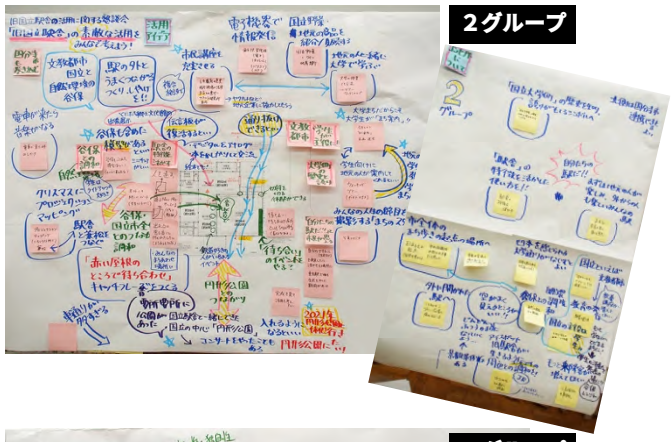


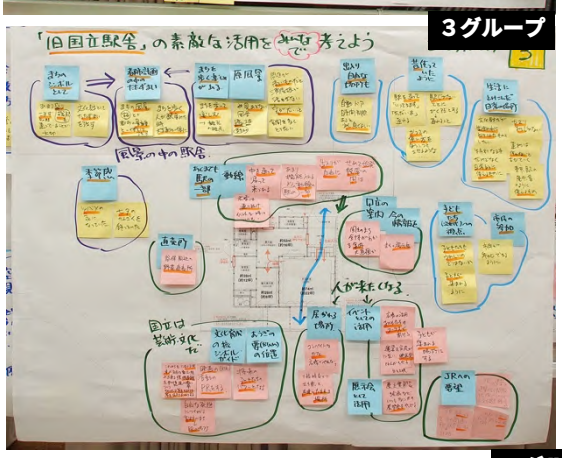


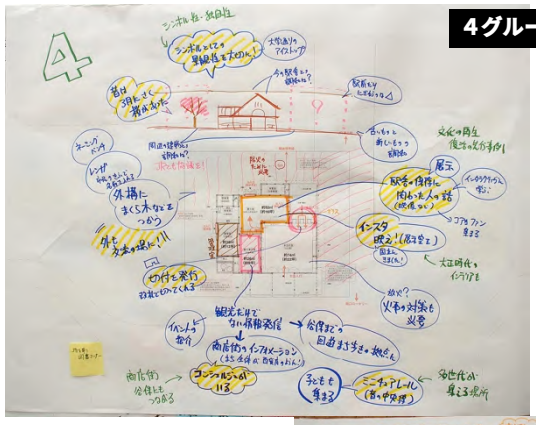



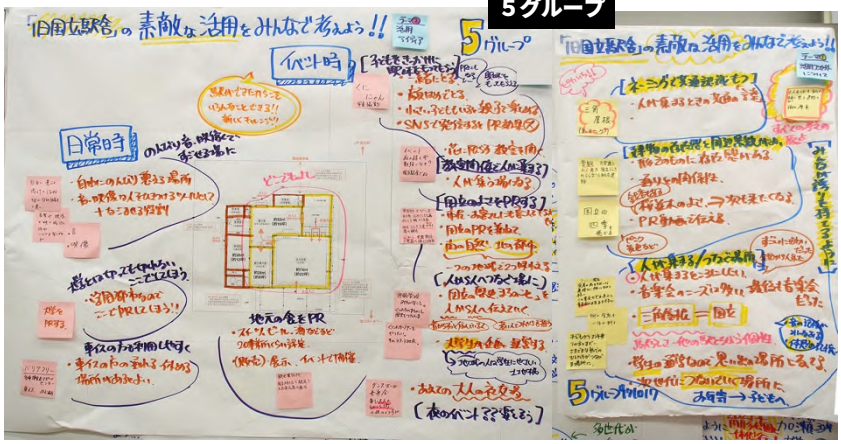
資料５

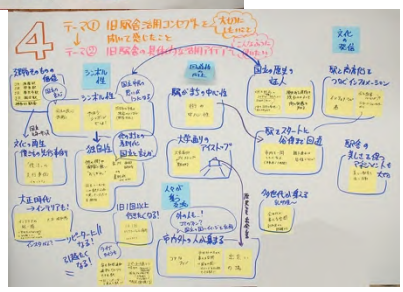
## （２）懇談会②（2017（平成 29）年 10 月 17 日（火）19：00～21：30）

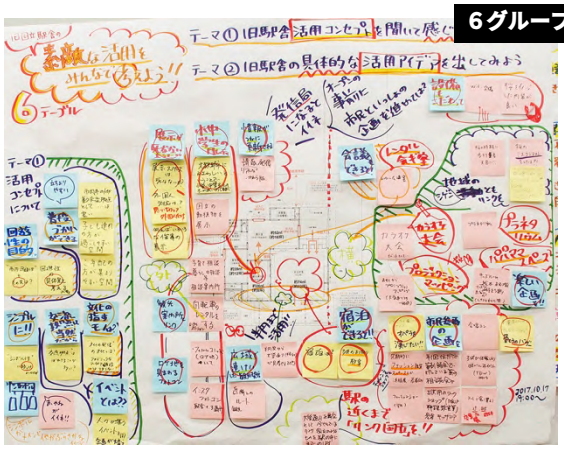


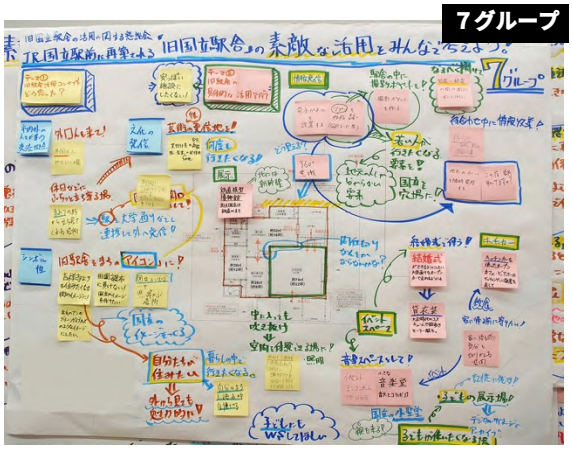





４．いただいたご意見の概要

資料５

## （１）旧駅舎活用コンセプト案を聞いて感じたこと

| | |
|---|---|
| シンボル性 | 《存在＝シンボル性》<br>●旧国立駅舎がそこにあること自体がシンボル性を生み出す大切なこと<br>・旧駅舎があること自体が大切<br>・旧駅舎をまちの「アイコン」に<br>●活用コンセプト案の中でもシンボル性が最も重要<br>・４つのコンセプト案の関係性→「シンボル性」が上位、その下に他の３つのコンセプトがぶら下がる<br>●建築物そのものの文化財としての価値も大切<br><br>《愛着を生む》<br>●国立の人が愛着を持てば、市外の人にも魅力的に映るはず<br>・自分が住み続けたいと思うまち→外から見ても魅力的！<br>●「三角屋根」など、現在の JR 国立駅と混同しない名称・愛称が必要<br>・名称に「駅」とついたら混乱するのでは？<br>・人が集まる時の「三角屋根」を意識したネーミングで共通認識を持っては<br>●「国立大学町」の歴史を知り、誇りがもてるシンボルへ<br><br>《国立らしさ／駅舎らしさ》<br>●旧国立駅舎を中心に文化的な香りのある「国立らしさ」を生み出したい<br>・「国立らしさ」を体現するような施設にしたい<br>・国立のイメージを作り出す場所にしたい<br>・国立らしいおしゃれな施設に<br>・他のまちとは異なる独自性・差別化が大切<br>・どんどん普通のまちになっていってしまう<br>・今の文化的な薫り（国立らしさ）を大切にしたい！（商業ベースは違うかな）<br>・文化の再生復活の先導事例となってほしい（国立ルネッサンス）<br>●旧国立駅舎の特徴・個性をうまく活かして使いたい<br>・かつての駅としての使い方を彷彿させるように<br>・季節感のあるものに。かつては七夕の短冊を駅舎で飾っていた<br>・みんなが必ず通りたくなる場所にしたい<br><br>《大学通りや周辺との一体感》<br>●大学通りと一体的に扱ってほしい<br>・大学通りのアイストップに旧駅舎があることが魅力的<br>・国立の都市の景観と一体として残したい<br>・桜のピンク色、銀杏の黄色など四季が感じられる大学通りが好き<br>・景観のよさを PR 動画などで広く伝える<br>●旧国立駅舎がシンボリックになるよう周辺環境に配慮したい<br>・余計なものはあまりいらない（ビルとか）<br>・アイストップとして旧駅舎が活きるように周辺とのコンセプトの調和を！ |

| | |
|---|---|
| 市内外の<br>人々が集う<br>交流拠点 | 《市民のための場所》<br>●市民のための日常の場所にしたい<br>・外からというより「市民のために」を大切に！<br>・特別な時だけではなく、生活に溶け込んだ日常の場所<br>・飾り物ではない。東京駅の展示室のように使えるものに<br>・休日などにふらっと立ち寄る場<br><br>《市外からの来訪者をリピーターに》<br>●市外の人が訪れ、まちのリピーターになるような場所にしたい<br>・市外の人にも使いやすく！<br>・市外の人がリピーターとなり、ゆくゆくは引っ越したくなる場所にしたい<br>・陳腐化する展示は行わないなど、繰り返し足を運んでもらえる工夫が必要<br>・ライブカメラを置く<br>・国立の堅い印象を払拭し、市内外の人が集まれる場所にしたい<br><br>《学生が活躍する場所》<br>●学生が訪れ活動したくなるような場所にしたい<br>・学生をうまく引き寄せる場に！<br>・国立の主役は学生！<br>・もっと学生がとどまるまちに！<br><br>《多世代交流が生まれる場所》<br>●多世代が交流し、つながりの生まれる場所にしたい<br>・乳幼児から高齢者まで多世代が集える場所にしたい<br>・絆をつくる場にしたい（最高の待合室）<br><br>《外国人や観光客が訪れる場所》<br>●オリンピックに合わせ、外国人も来たくなる場所にしたい<br>●観光客で騒然とする状況は避けたい<br>●人が集まる・つなぐ場所にする<br>・旧駅舎お別れ会で開催した音楽会では全国から人が集まりすごい賑わいだったので、音楽会開催のニーズは多いと思う<br><br>《その他》<br>●具体的にどのような交流をする拠点なのか考える必要がある<br>●交流拠点として開放する場合に、治安には気を付けたい<br>●建物規模から大勢の人が集まる交流拠点としての活用は難しいのではないか。シンボルとして国立を伝える役割がメインではないか |

| | |
|---|---|
| 市内回遊性の向上 | 《旧国立駅舎を起点とした回遊性》<br>●旧国立駅舎を国立の玄関口に、市全体へ広がる回遊性を高めたい<br>・市全体のまち歩きの起点の場所へ<br>・いろいろな資源へ回遊させる入口に<br>・駅がまちの中心にあることが価値<br>●谷保まで続く自然環境を巡る回遊性を生み出せると良い<br>・駅をスタートに谷保まで回遊できると良い<br>・谷保、矢川、多摩のヘソ<br><br>《回遊する先》<br>●駅と商店街をつなぐインフォメーションセンターにしたい<br>●一橋大学を中心とした大学のまち<br>・今は構内に入りにくいので一橋大学へのアプローチに！<br>●JR 国立駅の北側が鉄道のまち<br>●旧国立駅舎をきっかけにもっと JR 国立駅の乗降客が増えてほしい<br>●回遊性をもっと具体的に考える必要がある（ピンとこない・期待が薄い）<br>・玄関口となる時、旧駅舎だけではだめ→回遊するだけの魅力あるか？ |
| 文化の発信 | 《文化や芸術の発信》<br>●文化や芸術といった情報を発信する場所になると良い<br>・芸術性の発信地に！<br>・国立は「芸術、文化」だ<br>●国立の文化とは何か、改めて掘り下げる必要がある<br>・「文化的」の文化は何を指すか？→掘り下げて考えたい<br>・アカデミックな内容ではつまらない<br><br>《国立の歴史／昔の雰囲気》<br>●国立の歴史や昔の雰囲気を感じられる施設にしたい<br>・天井の吹き抜け、ツバメを大切にしていた雰囲気など、昔の印象を活かす<br>・旧駅舎は国立の歴史の証人だ<br>・国立大学町の歴史を伝えたい<br>・大震災の復興、田園都市など国立らしさを体現する駅に<br>・インテリアも大正時代に合わせたい<br>●「歴史の発信」自体は良いが、コンテンツとしてマンネリ化してしまう懸念<br><br>《教育や教養の発信》<br>●教養を身につけられるようなまちにしたい<br>・国立といえば文教都市→教養講座が増えてほしい<br>・教育の発信 |

| | |
|---|---|
| その他<br>コンセプト・<br>アイデア・<br>意見 | 《活用コンセプト》<br>●活用コンセプトを分かりやすく伝えることが重要<br>・活用コンセプトをもっとわかりやすく<br>・文章が長い。「文化」、「観光」、「景観」で良い<br>・「①つなぐ（共感、つながり）、②つむぐ（楽しさ）、③つづく（驚き、発見）」など、誰でも明快にコンセプトを理解できるように<br>●何のために旧国立駅舎を再築したのかを考えていくことが大事<br>●活用コンセプトは期待感やワクワク感の持てるものが良い<br>・現コンセプト案はわくわくしない、お役所的<br>・南側の出口を出たら希望感、開かれている感じ、わくわく感やストーリーが始まる感じが出るような言葉が良い<br>●活用コンセプトは旧国立駅舎単体だけでなく、まちとの関係にも焦点を当てたい<br>・各コンセプト案はとても良いが、建物単体のことが多い印象<br>・深みのあるコンセプトが必要<br>・まち全体のグランドデザインを<br><br>《国立市の PR》<br>●国立市を大々的に PR する場所にしたい<br><br>《周辺との関係》<br>●開かれた、入りやすい施設にしたい<br>・開放されている屋根付きの広場のイメージ<br>●JR 国立駅の北側とも連携した展開があると良い<br>・北側は国分寺市と連携できると良い<br><br>《市民の参加》<br>●旧国立駅舎の活用に市民も参加できるように<br><br>《旧駅舎に付与する機能》<br>●災害時について検討する必要がある<br>●機能をごちゃごちゃさせないようにすべき<br><br>《その他》<br>●旧国立駅舎の正面以外からの見え方に注意が必要<br>●美しい旧駅舎を保つ維持管理活動も大切<br>●土地の有効利用のため地下室を造ると良い<br>●IOT を活用したまちづくりを実施したい<br>●旧国立駅舎の保存に尽力した人たちの想いを聴くことが大事<br>●再築後は鉄道駅として使わないことにびっくりした |

## （２）旧駅舎の具体的な活用アイデア

| | |
|---|---|
| 全体 | 《企画・運営》<br>●活用の方針に沿った運営主体を置けると良い<br>●大学生が活用し、運営にも参画するような場所にしてはどうか<br>・ターゲットは大学生に！運営側にも巻き込み、大学生が使える場所に<br>・地元の人が学生にまちのことを教え、学生が来訪者に教える仕組みを<br>●市民が運営に参加<br>・案内人ボランティアの常駐<br>・運営を市民が担い、自主上映の映画会をやる<br><br>《まちのコンシェルジュの設置》<br>●コンシェルジュのような案内人を設置したい<br>・「国立検定」に合格した「国立コンシェルジュ」を案内人として常駐させる<br><br>《まち歩きの仕掛け》<br>●「国立を知る」まち歩きを開催する<br>●スタンプラリーなど地域へつながる仕掛けがあると良い<br>●文教都市である国立と自然豊かな谷保が調和する仕掛けがあると良い<br>・文教都市国立と自然環境の谷保、うまくつながる仕掛けを！<br>・農の発信　農業体験のスタート地とまち歩き、円形公園の池で田植え<br><br>《国立のモノづくり・小商いの PR》<br>●国立でモノづくりや小商いなどをしている人を PR する場所にしたい<br>・モノづくりをしている人を広く紹介<br>・個人で頑張っている街中のお店に誘導、足を運ぶ流れを作る<br>・まちのお店のグルメフェアを行う<br>・職業体験コーナー<br>・小商いスペースを用意<br><br>《ケータリング》<br>●外部でケータリングカフェなどを展開できると良い<br>・キッチンカーを使ったオープンカフェ、ビアホールとして活用<br><br>《イベント》<br>●失敗も含めて新しくいろいろなことをチャレンジ<br>●イルミネーション、キャンドルナイトなど、夜をうまく使う<br>・クリスマスや桜の時期にプロジェクションマッピング<br>・学生はライトアップ大好き<br>●「桜のミスコン」を実施してはどうか<br>●結婚式で使う！<br>●大学通りが舞台のイベント（LINK くにたち等）の範囲を旧駅舎まで伸ばす<br><br>《大きなイベントの拠点機能》<br>●まちで行われる大型イベントの拠点として活用したい<br>・歩行者天国、マラソン、車いすマラソンなどのイベント拠点に<br>《災害時拠点機能》<br>●駅前の帰宅困難者をカバーする機能が必要 |

| | |
|---|---|
| 全体 | 《子育て世帯向け機能》<br>●子育て相談や暮らしの相談等、身近な相談案内所の機能がほしい<br>●子どもが使いたくなる施設、子育て世帯が使い易い施設にしてほしい<br><br>《まちの情報発信機能》<br>●観光だけでなくさまざまな情報発信の場にしたい<br>・まちの情報が常に発信される場にしたい<br>・情報を見える化（壁面）<br>・市に点在する情報がここで見られる（天気、温度、ゴミの処理状況等）<br>・電子機器（タブレット、パソコン、スマホアプリ、ホームページ）で情報発信<br>●国立市のコミュニティ FM を設置し、地域情報を発信<br><br>《デジタルサイネージ（電子ディスプレイ）》<br>●待ち合わせながらまちの情報を収集できる場に<br>・デジタルサイネージで地元の人しか知らない穴場情報などを発信<br>●デジタルアーカイブ<br>・子ども達の作品を展示、デジタル化してデジタルサイネージでいつでも見られる場に<br><br>《写真映え》<br>●フォトジェニックな空間にしたい<br>・インスタ映えする空間づくり<br>・旧駅舎の中に撮影ポイントを！<br>・フォトコンテストを開催<br>●フィルムコミッションと連携してロケ地として活用したい<br>●みんなの人生の節目を撮影する「まちの写真スタジオ」として活用したい<br><br>《各室の関係》<br>●各室で完結させずに、相互に行き来できるような工夫を<br>●中央（多目的室／観光案内室／展示室）の間仕切り、なんとかならないかな？<br><br>《空間の演出》<br>●きれいな照明で空間づくり（ライティングや光の採り入れ方で美しい空間を）<br>●桜をイメージした内装が良い<br>●旧国立駅舎に関わるいろいろなもの・ことをレトロな雰囲気にしたい<br>・思いきりレトロにしよう！<br>●壁面を効果的に活用したい<br>●サイン計画（案内板など）に工夫がほしい<br>・サインデザインには、くにニャンを入れる<br>●バリアフリーに対応した施設にしたい<br>《外観や周辺環境》<br>●旧国立駅舎の背面は、通勤客や通行人へ配慮を<br>・北側、西側が「裏」にならないよう見え方に気を使ってほしい（360 度意識）<br>●円形公園との一体性を持たせたい<br>・円形公園と一体化！円形公園に行きたい！<br>●周辺の JR 敷地を開放的な、旧国立駅舎と相性の良い雰囲気にしてほしい<br>●インスタ映えを意識したまちづくりを（周囲から電線を排除するなど） |

| | |
|---|---|
| 全体 | ●屋外も交流の場にしたい<br>・外構を工夫してほしい（レンガ、枕木等）<br>・市民の寄付で名前入りベンチを設置したい<br>●昔の風景の復活<br>・かつて旧駅舎の西側に３月に咲く桜があった→敷地内に植樹をしたい<br><br>《管理室》<br>●管理室を有効活用したい<br>・管理室をイベントの時などは託児場所に変更してほしい<br>・お母さんがおむつ替えや授乳できる場所が欲しい<br>・管理室を休み処（畳、ソファ）にしてほしい<br>・いろいろ活用したいが管理関係のスペースも必要<br><br>《扉の管理》<br>●長い時間開放してほしい<br>・いつでも出入り自由に<br>・都心で働く人なども利用できるよう、開館時間はなるべく長いと良い<br>・始発から終電の間は開けておいてほしい<br>・いつも歩行者に通過してほしいのでドアは常時開放（自動ドアではないドアに）<br>●すべての扉を開放してほしい<br>・展示室の“締切”扉を開放してほしい（9:00～18:00 とか）<br>・東、西、北（特に西側）の出入口を時間を限定して開放 |
| 多目的室 | 《ネーミング／キャッチフレーズ》<br>●遊びに行きたくなるようなネーミングやキャッチフレーズを作りたい<br>・「街・会わせ」…初めて国立と出会う場所！<br>・渋谷のハチ公のような、待ち合わせ場所としてパッと頭に浮かぶネーミングを！<br>・キャッチフレーズを作る→「赤い屋根のところで待ち合わせ」<br><br>《待ち合わせ場所/休憩場所》<br>●待ち合わせ場所や休憩場所として機能させたい<br>・学生が下校時に友達と気軽に寄れる場所にしたい<br>・ママ友が会話できる場所にしたい<br>・日常的にフラッと立ち寄れる場所にしたい（待合室として座れるだけでも便利）<br>・集まり、交流できるようにベンチや小さな椅子・テーブルをたくさん置く<br>・用事がなくてもたまれる場所にしたい（飲食や雑誌も読める）<br><br>《鉄道駅を想起させる》<br>●昔の駅のイメージを大切にした空間に<br>・黒板・伝言板の復活<br>・「記念きっぷ」を発行し、北側出入口（改札）で切ってくれる仕組みが欲しい<br><br>《JR 国立駅との関係》<br>●現在の JR 国立駅の待合室としてうまく機能させたい<br>●JR 国立駅の延長としていつでも通り抜けられるようにしたい<br>《連携》<br>●ギャラリーやショップとして、地元作家にスペースを貸し出す<br>●小さな音楽堂、音大とコラボ |

| | |
|---|---|
| 多目的室 | 《イベント実施》<br>●市民参画などさまざまなイベントを実施したい<br>・さまざまな市民参画の企画（雑貨・洋服屋、薬の相談会、子どものアートイベント、ワークショップ、卒業展、骨董のバザー等）を実施<br>●音楽イベントを実施したい<br>・音楽イベントでわいわいする<br>・「国立の小聖堂」として使いたい（ステージスペース）<br>●大人を対象にした夜のイベントを開催したい<br>・ダンスホールや音楽会など、あえて年配など大人を対象に<br>・家に帰る前に寄りたい（飲食、イベント）<br>●若い人が集まるイベントを開催<br>・夏フェス、ライブハウス<br>・大学生は駅を通過するだけで意外と愛着がないので、大学生の発表の場などに<br><br>《天井の扱い》<br>●天井を外して吹き抜け空間にした方が良い<br>・大空間を体感できる場に！<br>●天井にツバメの巣が再び作られるような支板を設置<br>●半円窓まで活用<br>・半円窓から大学通り（桜など）が見渡せるスポット<br><br>《その他》<br>●人をひきつけ、和ませるツールとしての音楽・映像を<br>●まちの人が本を持ち寄る図書コーナーができると良い<br>・自由に閲覧できる資料を設置…多くの人が国立史に触れられる<br>●くにたち野菜の直売所があると良い<br>●宿泊体験ができると良い<br>●カフェができないのは残念 |
| 観光案内室 | 《ネーミング》<br>●「まちの魅力案内所」というワクワクするネーミングはどうか<br><br>《まちの PR》<br>●国立の案内<br>・国立の良さを PR する<br>・商店街のインフォメーション<br>・市内の回遊性を高めるために、個人商店が一目でわかる地図を展示<br>・情報が常に更新される「発信局」になると良い<br>・デジタルだけでなく、瓦版なども情報発信手段として使えると良い<br>・国立のまち全体がわかる案内（大画面で）<br>●文教都市であることを PR する空間づくりや企画を実施したい<br>・本のまちをイメージする空間と企画：古書店ツアー、文学とまち歩きの拠点<br><br>《販売》<br>●地元の商店街、名産品、食などを販売・PR できると良い<br>・地元ゆかりのアーティストが監修・運営する国立セレクトショップ<br>・地元の食を PR<br>・国立 Style 認定品を日常時またはイベント時に展示、できれば販売してほしい |

| | |
|---|---|
| 観光案内室 | ●旧国立駅舎モチーフのオリジナルグッズの販売<br>・旧国立駅舎のプラモデルやフィギュアなどを販売する<br>・くにニャン切手を製作し販売する<br>●旧国立駅舎の絵馬を製作して販売し、谷保天満宮へ行くきっかけにする<br><br>《まち歩き・観光の拠点》<br>●まち歩きの拠点として機能させる<br>・谷保までの回遊拠点として<br>・まち歩きマップを配布したい<br>・貸衣装：大正時代のコスチューム、セーラー服でまち歩き<br>・出札口の窓を通して何か渡したい（「まち歩ききっぷ」など）<br>●国立市内のさまざまな観光の拠点として機能させたい<br>・観光のフックの場に（タクリー号子ども神輿の移設、平兵衛祭り、定期市など）<br>・商工会と連携してレストラン情報を常備<br><br>《その他》<br>●旧車祭を伝えるプレートや旧車そのものを設置するといいかも<br>●会議室としてレンタルしてはどうか<br>●観光案内室に直接出入りできる入口が必要では |
| 展示室 | 《国立／旧国立駅舎にまつわるものの展示》<br>●旧国立駅舎が中心のジオラマ模型を設置してほしい<br>・国立市全体を俯瞰できる模型を設置したい<br>・谷保も含めたミニチュアがあるといい<br>●旧国立駅舎の保存に関わった人の話を学べる映像などを流す<br>●国立の誕生から今までを、映写などして表現したい<br>●くにたち郷土文化館の出張展示ができると良い<br>●国立の動植物などの展示があると良い<br>●ギャラリーで市民や小中学生の作品展示ができると良い<br><br>《展示の工夫》<br>●五感で感じられる展示があると良い<br>●AR・VR を活用<br>●常設展示はなくて良い？<br>・常設展はなるべく映像展示にして、詳しくはくにたち郷土文化館等へ誘導<br>●文化財としての説明はいつでも見られるように屋外にパネルを設置する<br><br>《その他》<br>●実は国立は鉄道のまちということを PR する<br>・鉄道模型博物館に<br>・ミニチュアレールで昔の中央線を走らせ、多世代が集える場所に<br>●学校の先生や学生がおススメする本が読める空間 |

| | |
|---|---|
| その他 | 《公式ロゴマーク》<br>●旧国立駅舎の公式ロゴマークを作る<br><br>《交流》<br>●高齢者と子どもが出会い、交流できる場所にしたい<br>●一橋大学の学生・留学生との交流ができる場所にしたい<br><br>《外国人の来訪》<br>●オリンピックをきっかけに外国人にも国立を知ってもらえるように<br><br>《他施設との連携》<br>●公民館・大学と連携した企画を<br>●新たにできる国立駅南口複合公共施設と連携して市民講座を充実させたい<br>●文化育成の核として機能させたい<br><br>《周辺のまちや企業などの協力》<br>●国立駅の北側から来る人もターゲットに→国分寺市・立川市と連携する<br>●ヤクルトなど地元企業に協力してもらう<br><br>《その他》<br>●大学通りを桜の時期に歩行者天国に<br>●自転車のレンタルができる拠点になると良い<br>●いろいろな視点から「国立」を表現できる場にする<br>・国立→計画的住宅地・大学町、音楽村、国立と谷保、中央線のひとつ、団地<br>●プラネタリウムがあると良い<br>●ロボットを活用した運営やサービスの提供ができると良い<br>・ロボットの活用→案内人をロボット化し、人件費を浮かせる<br>●子どもにも国立のことを考えるワークショップをしてほしい<br>●完成を見てから活用を考えたい<br>●火災の対策も必要（放火の心配）<br>●廃材でポストを作る<br>●安っぽい施設にしてほしくない |

# 資料６.関係団体等からいただいたご意見の概要

## （1）旧駅舎活用コンセプトに関するアイデア

・まち全体をつなぐハブとしてほしい
・まち全体を百貨店とみなし、旧国立駅舎はそのインフォメーションセンター
・まち全体を美術館とみなし、旧国立駅舎はその受付
・コンセプトの「文化・観光・景観」のうち「文化」には「学び」が内包されていると捉えてほしい
・旧国立駅舎は「駅舎単体の文化財」として捉えるのではなく「都市計画の文化財」として捉えるべき
・学生、若者向けの活用方法を検討すべき

## （2）旧駅舎の具体的な活用アイデア

| | |
|---|---|
| 全体 | 《活用の範囲について》<br>●文化財の枠を踏まえて企画を考えるべき<br>●文化財としての価値を伝えることが大事、余計な機能は不要<br>●活用方法をあまり決め込まず、最初は実験的な活用を<br>●毎年、新入生が入学し国立に来ているのだから、懐かしむだけでなく新しい活用が必要<br>●市民団体や大学のサークルの発表の場にしてほしい（コンサート・美術作品展示等のイベントを開催）<br>●民間企業や大学院にデモンストレーションやマーケティングテストの場として提供してはどうか<br><br>《イベント》<br>●まち歩きイベントの受付箇所（起点）として活用したい<br>・桜ウォーキングのスタート、ゴール地点に<br>●オープン記念として旧国立駅舎での結婚式を企画したい<br>●パーティを行いたい<br><br>《各室の関係》<br>●展示室と観光案内室の目的を厳密に分離せず、ゆるやかに混合しても良いのではないか（企画展示とそのミュージアムショップにする等）<br>●展示室と観光案内室の用途を交換してはどうか<br><br>《デジタルサイネージ（電子ディスプレイ）》<br>●デジタルサイネージで市内の桜の映像を放映してほしい<br>●コンコースに面したデジタルサイネージを設置し、通行者の目を引く<br>●デジタルサイネージで広告を常時映してはどうか<br>●タッチ式のデジタル案内板を多目的室に設置して観光案内をしてはどうか<br><br>《災害時機能》<br>●デジタルサイネージを設置し、災害時の情報拠点機能を |

| | |
|---|---|
| 多目的室 | 《旧国立駅舎の雰囲気に合った備品・インテリア》<br>●レトロで雰囲気のある空間作り<br>・昔の駅にあったような黒板を配置してはどうか<br>・ピアノを配置してはどうか<br>・雰囲気を崩さないようなるべく備品は置かず、イベント時のみ搬入するべき<br>・ポスターを掲示しすぎて雰囲気を崩さないよう留意すべき<br><br>《オープンスペース/待ち合わせ場所》<br>●東京駅の銀の鈴のような待ち合わせ場所として活用したい<br>●平常時はベンチを設置してほしい<br>●ポケットパーク的活用を志向し、南側の扉は常時開放してほしい<br><br>《イベント実施》<br>●コンサートを開催したい<br>・多目的室の中央に楽隊を配置し、観客は周囲から立ち見とするやり方も良い<br>・国立音楽大学附属高校とコラボした室内楽の演奏を行うことができるとよい<br>●大正時代に関するイベント（撮影会や蓄音機による音楽会等）を開催してほしい<br>●貸イベントスペースとして、安価に民間事業者や市民団体等に貸出す<br>（注）貸イベントスペースとすることに対する以下の慎重意見もありました<br>・イメージに合わない内容に対しては貸出しをすべきではない<br>・クリスマスの時期等は、取り合いが懸念される<br>●日替わり、週替わりの出店<br>・日替わりで市内の喫茶店に出張しもらってはどうか<br>・マルシェで地場野菜等を販売してほしい<br><br>《その他》<br>●今までの駅舎のあり方のように（人が行き交う通り道に）<br>●くにニャンと一緒に写真が撮れるようにしてはどうか<br>●新しいものと古いもののメリハリがあると良い（メディアアート等） |
| 観光案内室 | 《まち歩きの喚起/観光案内》<br>●まち歩きの拠点にしたい<br>・観光案内人を常時配置する<br>・ガイドウォークの予約受付窓口を設けたい<br>・まち巡りスタンプラリーを企画してはどうか<br>●店舗紹介<br>・アンテナショップで商品（作品）を知ってもらいたい<br>・テーマごとに特集で店舗を紹介する（店舗を３か月程度で入れ替え）<br>・ギャラリーやアトリエ、ものづくりスペースを紹介してほしい<br>・市内にはハンドクラフト等の小商いやネット販売をされている方もいるので、それを紹介・販売できる場所があれば、国立らしい一面をＰＲできる<br>・紹介する店舗を登録制してはどうか<br>●イベント情報の案内をしてほしい<br>●案内地図を設置してほしい<br>・市内名所、店舗、土産物、バス停等を記載した特大地図<br>・壁一面の大きなマップを作ってはどうか<br>●パンフレット |

| | |
|---|---|
| 観光案内室 | ・観光ルートのリーフレットを設置<br>・パンフレットやチラシが置いてあるだけの空間は望ましくない<br><br>《観光案内スタッフ》<br>●市民ボランティア・学生ボランティアを募る<br>●観光案内人の服装を大正期の駅員の格好にすると良い<br>●観光案内の他に行政ニュースの案内をしてほしい<br><br>《観光案内室は動線上入りにくいため工夫が必要》<br>●出札窓口をうまく使って<br>・出札窓口に主要パンフレットを配置<br>・カウンターで国立 style、グッズ等の物販を行う<br>●商品を多目的室に陳列し、会計を観光案内室ですることで、観光案内室に誘導をしてはどうか<br>●観光案内室の南側の窓の活用<br>・南側窓から屋外の人に対して案内をしてはどうか<br>・キオスクのように南側窓の脇（屋外側）に、パンフレットや商品を並べる<br>・南側に観光案内所の標示をする |
| 展示室 | 《まち歩きに役立つ展示》<br>●国立の特徴をわかりやすく伝えたい<br>・旧国立駅舎は街の骨格の一つということを伝えるべき（円形公園、大学通り）<br>・崖線等、地形がわかる国立市のジオラマがほしい<br>・谷保天満宮の祭りの神輿を展示や紹介してはどうか<br>・富士見台地域、南部地域に関する展示でまち歩きに役立ててもらいたい<br>●歴史を学び、まちを巡ってほしい<br>・大正、昭和初期と現在の地図を見比べたい<br>・観光に来た方がまず歴史を知ったうえで、現在の街とリンクさせる（展示をまず見て、観光案内室を見るという流れ）<br>・専門的な建築関連の展示より、都市計画や市民に愛された歴史を伝えたい<br>●多くの来訪者は、歴史に関するコンテンツには興味を持たないのではないか<br>・国立の「歴史」より「今」を知ってもらいたい（まち全体が素敵だと知ってもらい、国立に興味を持ってもらいたい）<br><br>《企画展》<br>●さまざまな企画展を行ってほしい<br>・歴史の展示だけであると、「一度行けばもう十分」となってしまう<br>・展示室の東側半分を常設展示、西側半分を企画展示と分けてはどうか<br>・地域の学校、子どもたちや児童の作品を展示してはどうか<br>・外から人を呼ぶためには、（一般市民の作品より）質の高い有名な作家の展示をするべきではないか<br>・旧国立駅舎創建当時から現在までの写真展や絵画展を開催してはどうか<br>・くにたち郷土文化館と連携した展示をしてはどうか<br>・市内のギャラリーに順番にキュレーターを任せてはどうか<br>・企画展を行うため、常設展示物の収納スペースが必要<br>●貸ギャラリーとしてはどうか |

| | |
|---|---|
| その他 | 《旧国立駅舎の周囲》<br>●初めて見た人が文化財の建物だとわかるような看板を建物脇に設置すべき<br>●キッチンカーを敷地内に停めて飲み物を売ってはどうか<br>●ひさしの下での地場野菜販売のニーズはあるのではないか<br>●周囲にもベンチを設置してほしい<br>●周囲の緑環境を整え、大学通り・円形公園・旧国立駅舎の緑に連続性を<br><br>《市民の愛着》<br>●建物名は、慣れない横文字のネーミング等よりは「旧国立駅舎」の方が重みがあるのではないか<br>●市民に愛着を持ってもらうよう工夫を（市民が掃除などの維持管理に関わる等）<br><br>《収益機能》<br>●収益を上げてランニングコストを部分的に賄えないか<br>・貸スペース（多目的室・展示室）による使用料を徴収してはどうか<br>・貸ギャラリーとして、主催者から使用料を徴収してはどうか<br>・コンコースに面したデジタルサイネージによる広告を流してはどうか<br>・自動販売機や ATM を設置してはどうか<br><br>《その他》<br>●鉄道マニアもよろこぶ施設に<br>・イベント時には鉄道を想起させるようなイラストや仕組みを取り入れる<br>・旧国立駅舎の模型を作り、Ｎゲージ等で中央線を走らせる<br>●円形公園でイベントを<br>・ビアガーデンとして活用できないか<br>・旧駅舎解体時に行った合唱のコンサートをまた行うことが出来ると良い<br>●開館時間<br>・観光案内のニーズは御飯時（19～20 時頃）までであるから、開館時間もこれを目安にすると良いのではないか<br>・多目的室だけでも終日入れるようにしてもらえないか<br>●連携<br>・城山さとのいえと連携してはどうか<br>・観光まちづくり協会と連携してはどうか<br>●Free Wi-Fi を設置すべき<br>●AED を設置すべき |

ご意見をいただいた方々（カッコ内は団体数）

市内経済団体（7）

まちづくり関係団体・元委員（8）

市内事業者（7）

専門家（5）

# 旧国立駅舎活用方針報告書

平成 29（2017）年度

国立市　都市整備部　国立駅周辺整備課